

中期目標の達成状況に関する評価結果

(中期目標期間終了時評価)

和歌山大学

令和5年3月

大学改革支援・学位授与機構

目 次

法人の特徴	1
-------	---

(法人の達成状況報告書から転載)

評価結果

《概要》	3
------	---

《本文》	4
------	---

《判定結果一覧表》	19
-----------	----

－《本文》における特記事項の冒頭「○」「●」について－

○：第3期中期目標期間4年目終了時評価において抽出されている特記事項※

●：第3期中期目標期間終了時評価において、4年目終了時評価結果を変えうるような顕著な変化として、追加で抽出されている特記事項

※ 新型コロナウイルス感染症下における対応については、4年目終了時評価結果を変えうるような顕著な変化の有無にかかわらず、令和2、3年度における取組や実績等を更新している。

法人の特徴

大学の基本的な目標（中期目標前文）

和歌山大学は、高野・熊野世界文化遺産など豊かな歴史と環境に育まれた和歌山県唯一の国立総合大学として、学術文化の中心としての使命と役割を担い、「地域と融合」し、地域の発展に寄与する学術研究を推進し、地域創生を牽引する人材を育成する。その実現のために次の基本的な目標を掲げる。

【教育】

1. 恵まれた自然環境や文化遺産を生かした、豊かな人間性を育てる教養教育と、一つの専門性に偏らない分野横断的な専門教育により、創造性と応用力に富んだ人材を育成する。
2. 学生に卒業後の進路を意識させ、確実な専門性を身につけさせる教育体系により、自らの将来に目標と自信を持ち、その実現に向けて粘り強く取り組む人材を育成する。

【研究】

1. 独創的で萌芽的な研究や新たな分野を切り開く基礎研究を推進し、将来の学術基盤の核を育てる。
2. 観光学など新しい分野で先導的な研究を発展させ、世界をリードする海外の諸大学と連携した国際的な研究拠点を形成する。
3. 和歌山県を中心とするその周辺地域の発展のために、地域イノベーションを起こす応用研究・産学連携研究を進める。

【地域社会との連携】

1. 地域の企業、自治体、団体と連携した実践的な課題に触れる「地域と融合した深い学び」により、柔軟な社会性と対人関係力を養い、地域に誇りを持ち、地域社会に貢献する人材を輩出する。
2. 和歌山圏域の最も重要な財産である農産物、食品の付加価値を高め、農林業と食、健康、環境に関するグリーンイノベーションプログラムを推進する。
3. 人口減少、高齢化の課題解決、防災・減災に寄与するプロジェクトに地域社会とともに取り組む。

以上の基本的な目標の実現のため、和歌山大学は、社会や地域の要請に応え、教育、研究及び地域社会との連携機能を最大化できるガバナンス体制を構築する。

1. 教育については、教養教育改革を進め、地域教養を軸においた「教養科目（基幹）」と、国際教養を軸に置いた「教養科目（実践）」、さらに専門教育科目と連携した「連携展開科目」の3つの科目群を整備した。また、地域課題に即した実践的な「教養科目」及び「実践型インターンシップ」からなる教育プログラムである「わかやま未来学副専攻」を整備するなど、豊かな人間性を育てる教養教育や卒業後の進路を意識させる教育プログラムを実践している。さらに、全学部を1学科/1課程制に再編するとともに、各学部が実施する一つの専門性に偏らない分野横断的な専門教育を通じて創造力と応用力の育成を行っている。
2. 研究については、第2期に引き続き学内競争的資金である「独創的研究支援プロジェクト」を実施し、異なる複数領域の知識や技術を組み合わせることで産業振興や産業創生につながる研究テーマに対し、支援を行ってきた。また、「研究プロジェクト推進オフィス」を設置してURAやコーディネーターを配置することにより基礎研究を推進するとともに、自治体や企業等との連携を深めるなど、将来の学術的基盤の核を育てている。また、国際観光学研究センターを設

置し、観光学の分野で世界をリードする海外の諸大学と連携した国際的な研究拠点の形成に取り組んでいる。

3. 地域社会との連携については、実践的なキャリア教育の強化という観点からも、地域におけるフィールドワークや、地域と連携・協働した中長期のインターンシップを実施し、柔軟な社会性と対人関係力を養い、地域に誇りを持ち、地域社会に貢献する人材を輩出することに寄与している。

また、平成 28 年度に食農総合研究所を設置し、自治体や地元企業等と農林業や食に関する共同研究を推進してきたほか、高齢者の課題解決に寄与する研究、さらには地域と連携した防災・減災に寄与する研究など、地域課題に密接に関わる研究に取り組んできた。令和 2 年 4 月には、学長直轄の組織として「紀伊半島価値共創基幹」を設置し、研究成果の提供に留まらず、自治体・企業・市民団体等との共創を通じた教育研究の展開により、紀伊半島が抱える課題の解決と地域の事業発展に取り組んでいる。

[個性の伸長に向けた取組 (★)]

- 全学的な教学マネジメントの確立を図り、さらなる教育改革を推進するため、平成 30 年度に「教育の質保証に関する方針・手順」及び「同方針・手順に基づくモニタリング及びレビューのガイドライン」等を整備し、総責任者である学長の下、「クロスカル教育機構教育改善推進専門部会」を中心とした教育の内部質保証体制を構築した。以降、教育のプログラムのモニタリング・レビューの実施、3 ポリシーの点検・見直しを行うなど、教育の質保証を進めている。(関連する中期計画 1-2-1-1)
- 平成 28 年度に食農総合研究所を設置し、自治体や地元企業等と連携した共同研究などに取り組み、社会実装化を進めてきた。また、地域課題に密接に関わる研究として、「中山間・沿岸地域を対象とした災害情報科学研究」や「鉄道・津波避難に関する研究」など、地域と連携した防災・減災に寄与する研究に取り組んできた。

このような本学の様々な研究プロジェクトを活用して、令和 2 年度には、学長直轄組織である「紀伊半島価値共創基幹」を設置した。「紀伊半島価値共創基幹」では、文理融合型の全学的な地域連携体制を構築し、自治体・企業・中間支援機関等の地域とのパートナーシップのもと、地域の課題解決や価値の創造など、地域貢献分野の一層の強化に取り組んでいる。

(関連する中期計画 3-1-3-1、3-1-3-3)

[戦略性が高く意欲的な目標・計画 (◆)]

- 我が国の観光学研究を高度化、国際化すべく、平成 28 年度に国際観光学研究センター(CTR)を設置するとともに、海外から世界トップクラスの研究者 6 名を特別主幹教授として招聘し、10 の研究ユニット(令和 2 年度に 3 ユニットに再編)及び 6 年間で 45 の研究プロジェクトを立ち上げ、国際的な共同研究、研究交流を推進した。その結果、国際的な有力誌を含む学術雑誌に 398 件の論文、書籍等を発表するなど、我が国の観光学研究の高度化に貢献した。特に、科学研究費助成事業「観光学」分野において第 3 期中期目標期間(6 年間)の機関別新規採択数は第 1 位を獲得している。さらに本学が中心となって、これまで有力国際学術誌の日本特集号の編さん、日本国際観光映画祭及び日本国内で初めて観光系の国際学会を開催するなど、日本及びアジアの観光学研究の拠点としての役割を担っている。(関連する中期計画 2-1-1-1)
- 観光学部では、世界に通用するグローバル人材を育成するため、これまでの教育研究の実績を踏まえ、国連世界観光機関(UNWTO)が実施する観光教育、研究、訓練プログラムの質向上を目的とした認証制度「tedQual」の申請を行い、平成 29 年に国内の大学として初めて同認証を取得した。以降、アドバイザリーボードなどを活用し、教育プログラムのさらなる改善・充実を図り、令和 2 年には観光学部が同認証を更新するとともに、観光学研究科(博士前期課程)が日本国内の大学院として初めて同認証を取得した。(関連する中期計画 4-1-1-3)

評価結果

《概要》

第3期中期目標期間の教育研究の状況について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、和歌山大学の中期目標（大項目、中項目及び小項目）の達成状況の概要は、以下のとおりである。

＜判定結果の概要＞

中期目標（大項目）		判定	中期目標（小項目）判定の分布				
	中期目標（中項目）		【5】 特筆すべき実績を 上げている	【4】 優れた実績を上げ ている	【3】 達成して いる	【2】 十分に達 成しているとはい えない	【1】 達成して いない
I 教育に関する目標		【3】 達成している					
	1 教育内容及び教育の成果等に関する目標	【3】 達成している		1	4		
	2 教育の実施体制等に関する目標	【3】 達成している			3		
	3 学生への支援に関する目標	【3】 達成している			5		
	4 入学者選抜に関する目標	【3】 達成している			2		
II 研究に関する目標		【3】 達成している					
	1 研究水準及び研究の成果等に関する目標	【4】 上回る成果が得られている		1	1		
	2 研究実施体制等に関する目標	【3】 達成している			1		
III 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標		【2】 おおむね達成している					
		なし			3	1	
IV その他の目標		【3】 達成している					
	1 グローバル化に関する目標	【3】 達成している			1		

※ 大項目「I 教育に関する目標」及び「II 研究に関する目標」においては、4年目終了時に実施した学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を反映している。

《本文》

I 教育に関する目標（大項目 1）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標を達成している

（判断理由）「教育に関する目標」に係る中期目標（中項目）4 項目のうち、4 項目が「中期目標を達成している」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（教育）を加算・減算して総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

（1）教育内容及び教育の成果等に関する目標（中項目 1-1）

【評価結果】中期目標を達成している

（判断理由）「教育内容及び教育の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）5 項目のうち、1 項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」、4 項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-1-1	判定		判断理由
創造性と応用力に富んだ人材及び地域を活性化し、地域に誇りを持つ人材を育成するための教育を実施する。	【4】	中期目標を達成し、優れた実績を上げている	- 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 - また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「地域の課題やニーズに沿った教育の実施」が特色ある点として認められるなど「優れた実績」が認められる。
		《特記事項》	
		（特色ある点） ○ 地域の課題やニーズに沿った教育の実施 平成 27 年度「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に採択された「わかやまの未来を切り拓く若者を育む“紀の国大学”の構築」の代表校として事業を推進しており、県内における課題・ニーズの的確な把握に努めると	

	ともに、学生の勉学意識と社会的貢献意識の向上及び就職支援・創業支援を目的とした「香村賞ビジネスプランコンテスト」等を実施している。また、教養教育に地域の風土や歴史、文化などを学ぶ「わかやま」学科目群を設け、全学生に履修を義務付けている。さらに、「わかやま未来学副専攻」プログラムや観光学部の「地域インターンシップ」など、地域の実践的な課題に即した教育を実施している。(中期計画 1-1-1-1) ○ 小中連携プログラムの設置 複数校種の教員免許状を保有する教員が求められている和歌山県の要望に応えるため、「小中連携プログラム」を設置しており、小学校教育と中学校教育の連携・接続を意識した教員の養成を目指した結果、卒業時に小学校教諭免許状と中学校教諭免許状を併せて取得した者の割合が、第2期中期目標期間末の 42.6%から令和元年度は 56.3%へと上昇している。(中期計画 1-1-1-1) ○ グローバル・プログラムの設置 観光学部で国際的实践力を育成するため、英語で専門教育科目を提供するグローバル・プログラム (GP) を設けている。第3期中期目標期間における GP の登録者においては、TOEIC IP テストの平均スコアが 116 点向上 (平成 28 年度比) している。(中期計画 1-1-1-1)		
小項目 1-1-2	判定		判断理由
高校から大学教育へ円滑に移行するための初年次教育など、入学者の状況に応じた教育を充実し、各専門分野で必須となる基礎的な能力を身につけさせる。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》		
	該当なし		
小項目 1-1-3	判定		判断理由
入学から卒業まで一貫した教養教育を実施し、深い思考力と豊かな人間性と倫理観を備えた人材を育成する。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》		
	該当なし		

小項目 1-1-4	判定		判断理由
産業構造の変化により求められる知識、技術の高度化・多様化に対応すべく、学際的、分野横断的な専門教育を行う。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》		
	(特色ある点) ○ 地域と連携した教育の推進 平成 28 年度に「和歌山県まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づいた人材の育成、県内の就職率向上、雇用創出等を目指して「わかやま未来学副専攻」を開講している。また、地域で活躍する実務家をゲストスピーカーに招いて和歌山の現状と課題解決について学ぶ「地域協働セミナー」、地元の企業と連携して商品開発を行うグループワークを中心とした授業を実施する「地域協働自主演習Ⅰ」など、地域と連携した学生の主体性・能動性を育む教育を実施している。平成 30 年度には、参加大学、自治体、企業団体と連携し、「わかやま」を強く志向し、「わかやま」に関して学修した者に対して「わかやま未来創造人」の称号を授与する「紀の国大学認定制度」を開始し、平成 30 年度 23 名、令和元年度 36 名を認定している。(中期計画 1-1-4-1)		
小項目 1-1-5	判定		判断理由
教育の質保証の観点から、公正かつ客観的な評価指標に基づく成績評価を行うとともに学生への学修支援を行う。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》		
	(特色ある点) ○ 学修管理システム LMS の積極的活用 平成 28 年度に教育コンテンツ制作室を設置するとともに、教育コンテンツの開発及び活用推進を行う「教育コンテンツ部会」を教務委員会の下に設置し、平成 29 年度にコンテンツ制作スタジオの運用管理を担当する特任技術職員を配置し、利用案内や撮影の予約受付を行うコンテンツ制作室のウェブサイト을立ち上げるなど、LMS 等の教育環境の整備を進めている。LMS を活用した教育コンテンツの整備を推進す		

	る「教育コンテンツ活用研修会」の開催等、eラーニングの活用に関するFD・SD研修会を毎年度開催した結果、第2期中期目標期間には80件であった利用コース（LMS登録単位）数が令和元年度には528件に増加している。（中期計画1-1-5-2） ● 全学的学修ポートフォリオの構築 達成目標を意識した学修に向けたきめ細かな支援を実施するため、教育サポートシステムと一体化した全学的学修ポートフォリオを構築している。学修ポートフォリオには、入試やメンタルヘルス、キャリア関係、ディプロマ・ポリシーに紐づけられた履修科目の単位取得状況等の情報を記録し、これらのデータを組み合わせて活用することで、卒業（修了）までを見据えたきめ細かな教育や学修支援を行っている。（中期計画1-1-5-1）
--	--

（2）教育の実施体制等に関する目標（中項目1-2）

【評価結果】 中期目標を達成している

（判断理由）「教育の実施体制等に関する目標」に係る中期目標（小項目）3項目のうち、3項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-2-1	判定		判断理由
全学的な教学マネジメントによる教員の教育力向上、教員間の連携と協力による組織的な教育の確立など、大学教育の改革サイクルを定着させる。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
			《特記事項》
			（特色ある点） ● 新型コロナウイルス感染症下におけるFD活動 令和2年度以降、内部質保証体制の中心を担う「クロスカル教育機構教育改善推進専門部会」において、新型コロナウイルス感染症下における遠隔授業の授業改善について検討し提案を行った。また、全学FD研修をオンラインで実施し、学内における先進的な取組の紹介、初めて学習管理システム（LMS）の利用や教材の電子化を行った教員によるオンライン授業への取組を報告することで、ICTスキルのレベルに応じた遠隔授業の実施に役立てる取組を行うなど、新型コロナ

	ウイルス感染症下における教育改善の取組を組織的に進めている。(中期計画 1-2-1-1)	
小項目 1-2-2	判定	
多様な学修形態に対応した体系的で質の高い教育を提供する。	【3】	中期目標を達成している ・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》 (特色ある点) ○ 新型コロナウイルス感染症下の教育 新型コロナウイルス感染症による影響下において、遠隔授業を円滑に実施するため、「遠隔授業実施 WG」を立ち上げており、「和歌山大学遠隔授業実施ガイドライン」を策定して教員に公表している。また、WG が中心となり、Moodle や Teams の使用方法やコンテンツ作成方法等について周知を行うとともに、特任技術職員を配置して支援を行っている。さらに、感染症拡大以前より推進していた LMS の活用体制を発展させて、遠隔授業の実施に役立てている。	
小項目 1-2-3	判定	
留学、インターンシップやボランティア等の社会体験活動などの「学外学修プログラム」の機会を充実させる。	【3】	中期目標を達成している ・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》 (特色ある点) ○ 効果的なインターンシップ インターンシップを効果的に行うため、ワークシートを活用する仕組みを開発している。学生には、目標シートに事前に業界や企業等についての分析や目的・目標を記入させ、企業にもインターンシップの目的・戦略や具体的なプロジェクト設計を記述してもらうことで、学生・企業双方のインターンシップに対する意識を高めている。また、インターンシップ実施前に学生・企業合同で「実習プログラム計画ワークショップ」を開催し、事前に作成したワークシートを基に実習計画を立てることで、インターンシップ内容の充実を図っている。なお、この取組は平成 29 年度に日本インターンシッ	

	ブ学会で秀逸なインターンシップ事例に送られる「槇本記念賞」に選定されている。(中期計画 1-2-3-1)
--	--

(3) 学生への支援に関する目標 (中項目 1-3)

【評価結果】 中期目標を達成している (判断理由) 「学生への支援に関する目標」に係る中期目標 (小項目) 5 項目のうち、5 項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-3-1	判定		判断理由
第 2 期に開始した学生生活実態調査との比較分析を行い、学生を取り巻く社会環境の変化に対応した学生支援を行う。	【 3 】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《 特記事項 》		
	該当なし		
小項目 1-3-2	判定		判断理由
経済的に困窮している学生に対する支援を充実する。	【 3 】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《 特記事項 》		
	(特色ある点) ● 独自の経済支援制度の導入 令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により経済的に困窮している学生の支援を目的に「和歌山大学家計急変奨学支援特例措置」制度を設け、独自資金（寄附金 5,000 千円、自己収入 5,300 千円）により学生 206 名に一人当たり 5 万円を支給している。令和 3 年度には、下宿している学生の生活費の援助を目的として「和歌山大学家賃支援給付金」制度を設け、独自資金等（寄附金 10,520 千円、JASSO 助成金 1,000 千円）を財源として、学生 576 名に一人当たり 2 万円を支給している。（中期計画 1-3-2-1）		

小項目 1-3-3	判定		判断理由
障がい学生の自立及び社会参加に向け、地域の高等教育機関、関係団体と連携し、総合的な支援が行える環境を整備する。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》		
	該当なし		
小項目 1-3-4	判定		判断理由
全学的就職支援体制の下で、キャリア形成支援、学生相談体制と連携した就職対策の立案を強化・維持する。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》		
	該当なし		
小項目 1-3-5	判定		判断理由
ハラスメント防止に努めるとともに、発生を未然に防ぐための体制を強化する。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》		
	該当なし		

(4) 入学者選抜に関する目標（中項目 1-4）

【評価結果】 中期目標を達成している

（判断理由）「入学者選抜に関する目標」に係る中期目標（小項目） 2 項目のうち、2 項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-4-1	判定		判断理由
学修意欲の高い学生を入学させるために、アドミッション・ポリシーをさらに明確なものとし、大学が求める学生像を社会に示す。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》		
	該当なし		
小項目 1-4-2	判定		判断理由
アドミッション・ポリシーに基づき、知識偏重の試験にならないよう改善を図り、能力・意欲・適性や活動歴を多面的・総合的に評価・判定する入学者選抜に転換する。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》		
	該当なし		

Ⅱ 研究に関する目標（大項目 2）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を達成している

（判断理由）「研究に関する目標」に係る中期目標（中項目）2 項目のうち、1 項目が「中期目標を上回る成果が得られている」、1 項目が「中期目標を達成している」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（研究）を加算・減算して総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

（1）研究水準及び研究の成果等に関する目標（中項目 2-1）

【評価結果】 中期目標を上回る成果が得られている

（判断理由）「研究水準及び研究の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）2 項目のうち、1 項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」、1 項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 2-1-1	判定		判断理由
内外の先端的な観光学研究者を広く結集することを通じ、国際的な共同研究・研究交流によって観光学研究を高度化し、日本の観光学研究の拠点として斬新な研究成果の創造とその果敢な発信を実現する。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》		
	（特色ある点） ○ 国際的な観光学研究の推進 平成 28 年度に国際観光学研究センター（CTR）を設置し、世界トップクラスの研究者 6 名を招聘し、外国人研究者を含む CTR 専任研究員 6 名を雇用している。これらの研究者と日本人教員で構成する 10 の研究ユニット及び延べ 42 の研究プロジェクトを立ち上げ、国際的な共同研究を推進している。その結果、科学研究費助成事業の観光学分野における新規採択累計数（過去 5 年間）が、平成 27 年度から平成 29 年度までの間、全国 1 位を獲得している。（中期計画 2-1-1-1）		

小項目 2-1-2	判定		判断理由
産学官セクターと連携を深め、地域の産業ニーズに対応した研究プロジェクトを推進する。	【4】	中期目標を達成し、優れた実績を上げている	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 ・ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「地域産業の発展につながる研究推進」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。
			《特記事項》
			(優れた点) ○ 地域産業の発展につながる研究推進 地域産業の振興・創成につながる研究シーズを支援し、産官学の連携プロジェクトとなるように取り組んだ結果、第3期中期目標期間に6件の研究プロジェクトを形成している。また、地域産業の振興・創成、社会貢献が期待される研究を推進した結果、パワード車椅子に関する研究については、最先端の技術を駆使して開発された義手、義足、電動車いすなどを用いて、障害のある人たちが日常生活に必要な動作で競う国際競技大会であるサイバスロンのパワード車いす部門において世界第4位の成績を収めている。(中期計画 2-1-2-1)

(2) 研究実施体制等に関する目標 (中項目 2-2)

【評価結果】 中期目標を達成している

(判断理由) 「研究実施体制等に関する目標」に係る中期目標 (小項目) が 1 項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

小項目 2-2-1	判定		判断理由
教員が活発な教育研究が実施できるよう、基盤整備や支援体制充実を図る。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》		
	(特色ある点) ○ 独創的な研究の支援 卓越した研究グループや学部横断・文理融合型プロジェクトを支援し、研究拠点の形成等に繋げる学内競争的資金「独創的研究支援プロジェクト」の支援を通じて、和歌山大学のミッションに直結する研究を推進した結果、医療および食品応用を目指した糖鎖研究においては、「糖質応用研究コンソーシアム」を設立して企業との共同研究に繋げており、6 件の特許を出願し、事業化を見据えた特許の実施許諾契約を締結している。(中期計画 2-2-1-1)		

Ⅲ 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標(大項目3)

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標をおおむね達成している

(判断理由)「社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標」に係る中期目標(小項目)4項目のうち、3項目が「中期目標を達成している」、1項目が「中期目標を十分に達成しているとはいえない」であり、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

小項目 3-1-1	判定		判断理由
学士課程においては、地域との連携による実践的な課題に触れる教育を提供し、生涯学習力を育成する。	【2】	中期目標を十分に達成しているとはいえない	・ 中期計画の判定において「中期計画を十分に実施しているとはいえない」がある。 ・ また、「教育学部全体での教員就職率の状況」に改善を要する点が指摘されたため、小項目を十分に達成しているとはいえない。
	《特記事項》		
	(特色ある点) ○ 地域課題に取り組むフィールドワーク型教育 主免教育実習を終えた3年次生が和歌山県内の小規模校において現地にホームステイしながら複式授業を中心とした2週間の教育実習を行う「へき地・複式教育実習」や、主免教育実習を経験していない1・2年次生がホームステイをしながら、和歌山県内の小規模校において運動会などの学校行事補助や授業補助、生徒指導補助などを行う「小規模校活性化支援事業」等、地域における実践的な課題に取り組むフィールドワーク型教育を実施している。「へき地・複式教育実習」に参加した学生の小学校教員採用試験(和歌山県)合格率は、第2期中期目標期間末の80.0%から、令和元年度の100%へ上昇している。(中期計画3-1-1-1) (改善を要する点) ○ 教育学部全体での教員就職率の状況 教育学部全体での教員就職率を80%にするという目標について、平成28年度71%、平成29年度65%、平成30年度66%、令和元年度62%、令和2年度65%、令和3年度59%		

	となっており、一定程度の取組は見られるものの、目標を達成していない。(中期計画 3-1-1-3)	
小項目 3-1-2	判定	
大学院課程においては、高度な分析能力を身につけ、専門知識、技能を展開して問題解決能力を培い地域課題に取り組む高度な専門人材を育成する。	【3】	中期目標を達成している
	判断理由	
	中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。	
	《特記事項》	
	該当なし	
小項目 3-1-3	判定	
和歌山圏域の最も重要な財産である農林業と食、健康、環境に関わる事業の発展、人口減少、高齢化の課題解決及び防災・減災に寄与する研究プロジェクトを推進する。	【3】	中期目標を達成している
	判断理由	
	中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。	
	《特記事項》	
	(特色ある点) ○ 高齢者の課題解決に向けた研究開発 高齢者の課題解決に向けたシニアエクササイズ運動プログラムに関する研究では、運動による自治体の医療費縮減効果を明らかにしているほか、企業との共同研究「脈波波形からの各種健康指標推定」では、脈波信号のみによる血圧推定法を開発している。(中期計画 3-1-3-2) ○ 防災・減災に寄与する研究 防災・減災に寄与するプロジェクトを地域と連携して推進し、独自の防災ジオツアープログラムの開発や鉄道事業者と連携した沿岸部の列車からの津波避難訓練を体系化したほか、高精度レーザー測量データを活用した土砂災害の危険場所等を推定する技法の開発等、地域課題の解決に寄与している。(中期計画 3-1-3-3) ● 災害ボランティア拠点「むすぼら」の常設 和歌山大学災害科学・レジリエンス共創センターでは、「防災・減災・復興の担い手づくり」を目的に、平時から災害ボランティア拠点を常設し、地域とも連携しながら災害に強い人材の育成に取り組むこととしており、令和3年3月に災害ボランティアステーション「むすぼら」を設置している。「むすぼら」は、学生・教職員を問わず参加でき、平常	

	時はスキルやテクニックを磨くための企画や教育活動の実施、災害発生時には災害ボランティアとしての活動や遠方からの後方支援などを実施しており、例えば、令和3年10月に発生した和歌山市北部大規模断水の際には、「むすぼら」に登録している学生を中心に全学から延べ79名の学生が参加し、応急給水所での給水ボランティア活動を実施している。(中期計画 3-1-3-3)		
小項目 3-1-4	判定		判断理由
和歌山地域の大学図書館および公共図書館との連携を進め、司書配置率の低い学校図書館への支援を行い、地域の教育環境を改善する。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》		
	該当なし		

Ⅳ その他の目標（大項目 4）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を達成している

（判断理由）「その他の目標」に係る中期目標（中項目）が 1 項目であり、当該中項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

（1）グローバル化に関する目標（中項目 4-1）

【評価結果】 中期目標を達成している

（判断理由）「グローバル化に関する目標」に係る中期目標（小項目）が 1 項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

小項目 4-1-1	判定		判断理由
世界に通用するグローバル人材を育成するため、語学力の向上やコミュニケーション能力の向上を図る。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》		
	（優れた点） ○ tedQual 認証の取得 観光学部及び観光学研究科において、観光学教育体系の確立、教育の質向上に取り組み、国連世界観光機関（UNWTO）の定める「教育・研究は地域や産業界、行政のニーズに対応しているか」、「教育の内容と教授法は適切か」等の 100 項目以上の基準をクリアし、日本の大学及び大学院として初めて tedQual 認証を取得している。（中期計画 4-1-1-3）		

《判定結果一覧表》

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・ 中期計画における 各判定の平均値 ※	(参考) 4年目 終了時 評価の 判定	
中期目標(中項目)					
中期目標(小項目)					
中期計画					
大項目1		【3】	達成して いる	3.13 うち現況分析結果加算点 0.08	【3】
教育に関する目標					
中項目1-1		【3】	達成して いる	3.20	【3】
教育内容及び教育の成果等に関する目標					
小項目1-1-1		【4】	優れた実 績を上げ ている	3.00	【4】
創造性と応用力に富んだ人材及び地域を活性化し、地域に誇りを持つ人材を育成するための教育を実施する。					
中期計画1-1-1-1		【3】	優れた実 績を上げ ている		【3】
学部及び研究科ごとの人材養成像をさらに明確にし、卒業・修了後の進路を想定した履修モデルを整備するとともに、各学部及び研究科において以下の特色ある教育プログラムを開発し実施する。 ・小中一貫教育に対応した小中連携プログラム(平成28年度導入) ・高度理科教員育成プログラム(平成28年度導入) ・専門科目を英語で履修することのできるGP(グローバル・プログラム)(平成28年度導入) ・アグリビジネスユニット(大学院への飛び級進学を見据えたエキスパートコース)(平成28年度導入) ・高度技術教員養成プログラム(平成29年度導入)					
小項目1-1-2		【3】	達成して いる	2.00	【3】
高校から大学教育へ円滑に移行するための初年次教育など、入学者の状況に応じた教育を充実し、各専門分野で必須となる基礎的な能力を身につけさせる。					
中期計画1-1-2-1		【2】	実施して いる		【2】
初年次教育においては、育成する学生像に沿った基礎的な知識、能力を示し、入学者の資質に応じた教育を実施する。また、学部ごとに、専門分野の修得に際して身につけるべき基礎的な科目群を精選・体系化したカリキュラム編成を行う。					
小項目1-1-3		【3】	達成して いる	2.00	【3】
入学から卒業まで一貫した教養教育を実施し、深い思考力と豊かな人間性と倫理観を備えた人材を育成する。					
中期計画1-1-3-1		【2】	実施して いる		【2】
全学で実施する教養教育の充実及び教養教育と専門教育の連携を図るため、主要な科目群を整備するとともに、和歌山の自然環境と文化環境の利を活かして、地域と連携した教育を実施することにより学生が自主的・能動的に学修する機会を提供し、地域志向大学としての教養教育のモデル・ケースを構築する。					
小項目1-1-4		【3】	達成して いる	2.00	【3】
産業構造の変化により求められる知識、技術の高度化・多様化に対応すべく、学際的、分野横断的な専門教育を行う。					
中期計画1-1-4-1		【2】	実施して いる		【2】
専門性と同時に学際的な学識を獲得させるため、平成28年度から他大学、地方公共団体、企業等と連携した副専攻プログラムを新たに実施する。					
小項目1-1-5		【3】	達成して いる	2.00	【3】
教育の質保証の観点から、公正かつ客観的な評価指標に基づく成績評価を行うとともに学生への学修支援を行う。					
中期計画1-1-5-1		【2】	実施して いる		【2】
GPA(グレード・ポイント・アベレージ)制度のさらなる活用を図るため、平成30年度までに全学的な成績評価方針を策定し、厳格な成績評価を行うとともに将来に目標を持った学修を促すため、各教員が学生カルテ、目標管理シート(ロードマップ)などを活用し、きめ細やかな学修支援を行う。					

和歌山大学

中期目標(大項目)		判定		下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値※	(参考)4年目終了時評価の判定
中期目標(中項目)					
中期目標(小項目)					
中期計画					
	中期計画1-1-5-2(※) LMS(学習管理システム)やeラーニングを導入し、学生が自発的、継続的に学修する意欲を引き起こし、修得した知識を実践的に活用することができる能力を身につけさせるための教育環境を整備する。併せて、第2期期間中に改革を開始した附属図書館の利用者数を、改革開始時点(平成22年)から40%増加させる。	【2】	実施している		【3】
	中期計画1-1-5-3 メンタル面の不調で修学困難となった学生や、単位取得状況に問題のある学生、留年生などに対するキャンパス・ダイケアを取り入れたメンタルサポートシステムを強化する。	【2】	実施している		【2】
中項目1-2 教育の実施体制等に関する目標		【3】	達成している	3.00	【3】
小項目1-2-1 全学的な教学マネジメントによる教員の教育力向上、教員間の連携と協力による組織的な教育の確立など、大学教育の改革サイクルを定着させる。		【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画1-2-1-1(★) 資質の異なる学生に対してきめ細かな教育を実施するため、全学的な教学マネジメントを担う教育学生支援機構を平成30年度までに改組する。		【2】	実施している		【2】
小項目1-2-2 多様な学修形態に対応した体系的で質の高い教育を提供する。		【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画1-2-2-1 学士課程、大学院課程を通じてカリキュラムマップを整備するとともに、平成31年度までにナンバリングを導入し、学生に多様な学修の機会を提供する。		【2】	実施している		【2】
中期計画1-2-2-2 放送大学の利用や、LMSの活用など効率的な授業の実施を行うことにより、多様な学びのニーズに応え教育の質を維持する。		【2】	実施している		【2】
小項目1-2-3 留学、インターンシップやボランティア等の社会体験活動などの「学外学修プログラム」の機会を充実させる。		【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画1-2-3-1 すべての学部、研究科において平成32年度までに学年暦を柔軟化(クォーター制の導入)し、1か月以上の期間での海外留学、地域留学、中長期インターンシップ、ボランティア活動を行う制度を整備し、学外学修プログラムを充実する。		【2】	実施している		【2】
中項目1-3 学生への支援に関する目標		【3】	達成している	3.00	【3】
小項目1-3-1 第2期に開始した学生生活実態調査との比較分析を行い、学生を取り巻く社会環境の変化に対応した学生支援を行う。		【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画1-3-1-1 学生生活の変化や学生サービスのニーズを把握・分析し、その傾向をもとに必要となるガイダンスや「学生生活の危機管理」に関する授業を開講する。また、特に学生寮、課外活動施設の設備品更新や周辺環境整備等を実施し、学生生活・課外活動を支援することで、学生サービスの改善を図る。		【2】	実施している		【2】

中期目標(大項目)		判定		下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値※	(参考)4年目終了時評価の判定
中期目標(中項目)					
中期目標(小項目)					
中期計画					
	小項目1-3-2	【3】	達成している	3.00	【3】
	経済的に困窮している学生に対する支援を充実する。				
	中期計画1-3-2-1	【3】	優れた実績を上げている		【2】
	入学料・授業料免除等の経済的支援を継続するほか、学内行事サポートに学生を積極的に動員するなど、学内ワークスタディ事業を実施する。				
	小項目1-3-3	【3】	達成している	2.00	【3】
	障がい学生の自立及び社会参加に向け、地域の高等教育機関、関係団体と連携し、総合的な支援が行える環境を整備する。				
	中期計画1-3-3-1	【2】	実施している		【2】
	コンソーシアム和歌山に参加する高等教育機関、教育委員会、関係NPOと連携した研修、情報共有を実施し、平成26年度に設置した「障がい学生支援室」を軸に、聴覚障がい者にはノートテイク、視覚障がい者には資料等の点字化、肢体障がい者には机等の改良など障がいをもった学生の個に応じた支援を行う。				
	小項目1-3-4	【3】	達成している	2.00	【3】
	全学的就職支援体制の下で、キャリア形成支援、学生相談体制と連携した就職対策の立案を強化・維持する。				
中期計画1-3-4-1	【2】	実施している		【2】	
キャリアセンターを一元化し、効率的な組織体制のもとで学生組織や学外組織との連携により効果的なキャリア支援体制を構築する。					
小項目1-3-5	【3】	達成している	2.00	【3】	
ハラスメント防止に努めるとともに、発生を未然に防ぐための体制を強化する。					
中期計画1-3-5-1	【2】	実施している		【2】	
セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメントの防止について啓発するために、教職員に対する研修会及び学生向けガイダンスを毎年1回以上開催するほか、発生案件の傾向の変化を分析・共有し、対応に役立てる。また、教職員用のパンフレットを作成する。					
中項目1-4		【3】	達成している	3.00	【3】
入学者選抜に関する目標					
小項目1-4-1	【3】	達成している	2.00	【3】	
学修意欲の高い学生を入学させるために、アドミッション・ポリシーをさらに明確なものとし、大学が求める学生像を社会に示す。					
中期計画1-4-1-1	【2】	実施している		【2】	
本学への進学に意欲や希望を持たせるようにするため、大学が養成する人材像、教育課程、アドミッション・ポリシーを分かりやすい形にして示す。					
小項目1-4-2	【3】	達成している	2.00	【3】	
アドミッション・ポリシーに基づき、知識偏重の試験にならないよう改善を図り、能力・意欲・適性や活動歴を多面的・総合的に評価・判定する入学者選抜に転換する。					
中期計画1-4-2-1	【2】	実施している		【2】	
面接、論文、高等学校の推薦書、生徒が能動的・主体的に取り組んだ多様な活動、大学入学後の学修計画案を評価するなど、多様な評価による入学者選抜を実施する。入試制度改革後、入学者の追跡調査を行い選抜方法の妥当性・信頼性の検証を行う。					

和歌山大学

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目終了時評価の判定	
中期目標(中項目)					
中期目標(小項目)					
中期計画					
大項目2		【3】	達成している	3.37 うち現況分析結果加算点 0.12	【3】
研究に関する目標					
中項目2-1		【4】	上回る成果が得られている	3.50	【4】
研究水準及び研究の成果等に関する目標					
小項目2-1-1		【3】	達成している	2.00	【3】
内外の先端的な観光学研究者を広く結集することを通じ、国際的な共同研究・研究交流によって観光学研究を高度化し、日本の観光学研究の拠点として斬新な研究成果の創造とその果敢な発信を実現する。					
中期計画2-1-1-1(◆)		【2】	実施している		【2】
研究拠点機関となる国際観光学センター(仮称)を設置し、サリー大学などこの分野で海外のトップクラスの大学の研究者をリーダーとする研究ユニットを3つ以上設置する。並行して関連研究プロジェクトや外部の研究機関との連携による共同研究の推進を通じて、若手研究者の結集・育成を図るとともに、日本の観光学研究の拠点として、欧米諸国に比べ立ち遅れている我が国の観光学研究を高度化、国際化する。					
中期計画2-1-1-2		【2】	実施している		【2】
英語研究論文集の出版、国際学会等の開催を通じ、研究成果を国際的に発信する。また、学術情報リポジトリ登録コンテンツ数を第2期末に比して500件以上増加させ発信力を強化する。					
小項目2-1-2		【4】	優れた実績を上げている	3.00	【4】
産学官セクターと連携を深め、地域の産業ニーズに対応した研究プロジェクトを推進する。					
中期計画2-1-2-1		【3】	優れた実績を上げている		【3】
地域の産業振興、産業創成につながる本学の研究シーズを積極的に支援し、産学官の連携研究プロジェクトとなるようコーディネートする。特に、地域産業界からの要望の高いナノテクノロジーを中心とする材料分野、新しい観光産業への展開可能性の高い観光産業関連ビッグデータの解析に注力する。					
中項目2-2		【3】	達成している	3.00	【3】
研究実施体制等に関する目標					
小項目2-2-1		【3】	達成している	2.00	【3】
教員が活発な教育研究が実施できるよう、基盤整備や支援体制充実を図る。					
中期計画2-2-1-1		【2】	実施している		【2】
学内公募した研究提案を大型研究プロジェクトへと結実させるために、独創的研究支援プロジェクトを置く。大学のミッションに直結するテーマに関する研究の支援と教員の特徴ある研究の支援を、それぞれ独創的研究支援プロジェクト(A:大規模学術研究型)、(B:研究発展支援型)とし、学内公募された中から選考委員会の議により支援対象を決定する。(A)については毎年2件程度、(B)については予算に応じて若干数を選定する。					
中期計画2-2-1-2		【2】	実施している		【2】
リサーチ・アドミニストレーター(URA)を1名以上配置し、研究課題の設定やプロジェクト申請、進捗管理など、関連施設との連携により研究支援体制の整備を行う。					
中期計画2-2-1-3		【2】	実施している		【2】
テニユア・トラック制の普及・定着、研究費や研究スペースの重点配分など若手研究者を育成する環境を整備し、第3期末までにテニユア・トラック制を適用して採用する教員の数を10人以上(テニユアへ移行する教員を含む。)とする。					

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目終了時評価の判定	
中期目標(中項目)					
中期目標(小項目)					
中期計画					
大項目3		【2】	おおむね達成している	2.75	【2】
社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標		なし	—	—	なし
小項目3-1-1		【2】	十分に達成しているとはいえない	2.00	【2】
学士課程においては、地域との連携による実践的な課題に触れる教育を提供し、生涯学習力を育成する。					
中期計画3-1-1-1		【3】	優れた実績を上げている		【3】
地域と連携・協働した中長期のインターンシップ、地域におけるフィールドワーク、ホームステイ型へき地・複式教育実習など、地域資源を生かした取り組みを通じた実践的なキャリア教育を強化する。					
中期計画3-1-1-2		【2】	実施している		【2】
課題発見・探求能力、実行力といった社会人基礎力を培うため、PBL(課題解決型学習)などを活用した能動的な学修を平成32年度までに学士課程における授業の5割に導入する。					
中期計画3-1-1-3		【1】	十分に実施しているとはいえない		【1】
学生の学校現場へのボランティア活動の推進など教職への動機づけを行い、和歌山圏域の初等中等教育を担う教員の質の向上を図り、和歌山県における小学校教員採用の占有率25%を達成する。また、教育学部全体での教員就職率80%を達成し、教育学研究科においては70%を達成する。					
小項目3-1-2		【3】	達成している	2.00	【3】
大学院課程においては、高度な分析能力を身につけ、専門知識、技能を展開して問題解決能力を培い地域課題に取り組む高度な専門人材を育成する。					
中期計画3-1-2-1		【2】	実施している		【2】
地域の教育課題、産業構造、技術・文化レベルに貢献できる高度な専門人材を育成するため、高い専門性と学際性を総合的に推進するカリキュラムを実施し、少人数による演習形式を基盤に専門的知識と実践力を体系的に学ぶための専門教育を実施する。					
小項目3-1-3		【3】	達成している	2.33	【3】
和歌山圏域の最も重要な財産である農林業と食、健康、環境に関わる事業の発展、人口減少、高齢化の課題解決及び防災・減災に寄与する研究プロジェクトを推進する。					
中期計画3-1-3-1(★)		【2】	実施している		【2】
第2期に取り組んだグリーンイノベーションプログラムを拡張し、食品・農産物の高付加価値化、農林業と食、健康、環境に関する研究を推進するための教育・研究体制を整備し、地域と連携した研究プロジェクトを推進する。					
中期計画3-1-3-2		【3】	優れた実績を上げている		【3】
「シニアエクササイズ運動プログラム」、「難聴者の音の聞こえ方をシミュレートする研究」などの、高齢者の課題解決に寄与する研究に取り組む。また、独創的研究支援プロジェクト(A)による学術研究支援、コーディネーターによる産学連携や大型研究資金プロジェクト獲得に向けた情報提供など、外部資金獲得のための支援を行う。					
中期計画3-1-3-3(★)		【2】	実施している		【2】
「中山間・沿岸地域を対象とした災害情報科学研究」や「災害時通信ネットワークの研究」など、防災・減災に寄与するプロジェクトを地域と連携して推進する。					

和歌山大学

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値※	(参考)4年目終了時評価の判定	
中期目標(中項目)					
中期目標(小項目)					
中期計画					
小項目3-1-4 和歌山地域の大学図書館および公共図書館との連携を進め、司書配置率の低い学校図書館への支援を行い、地域の教育環境を改善する。		【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画3-1-4-1 和歌山地域コンソーシアム図書館で取り組んでいる貴重資料の巡回展示等の事業をさらに発展させ、地域の住民に学習機会を提供する。また、和歌山では学校司書の配置率が低い等整備が不十分な現状があるため、県内の学校図書館の充実に寄与するため、学校図書館の立ち上げ支援や司書の研修機会を提供する。		【2】	実施している		【2】
大項目4 その他の目標		【3】	達成している	3.00	【3】
中項目4-1 グローバル化に関する目標		【3】	達成している	3.00	【3】
小項目4-1-1 世界に通用するグローバル人材を育成するため、語学力の向上やコミュニケーション能力の向上を図る。		【3】	達成している	2.33	【3】
中期計画4-1-1-1 TOEIC IPテストの全学的導入、英語による教育プログラムの実施、ASEANプログラムの実績を生かした海外でのインターンシップの実施や単位認定の促進など、学生が海外で活躍するための制度整備及び協定先を増やし、海外留学に結び付ける。大学間交流協定数は、現状(29大学)の20%増を目標とする。協定校の増加による留学生の増は各校2～3名を見込み、キャンパスにおけるグローバルな交流を実現する。		【2】	実施している		【2】
中期計画4-1-1-2 観光学で世界をリードするトップレベルの大学(サリー大学等)との連携や、外国人教員の獲得、日本人教員の英語能力の向上により卒業に必要な単位を英語で履修可能とするための体制を整備する。		【2】	実施している		【2】
中期計画4-1-1-3(◆) 観光学教育の体系を確立し、国連世界観光機関(UNWTO)における観光教育・訓練・研究機関認定「tedQual」を取得する。		【3】	優れた実績を上げている		【3】

※ 中期計画に表示されている記号が示す内容は、それぞれ以下のとおり。

- (★):「個性の伸長に向けた取組」に特に関連する中期計画(「法人の特徴」参照)
- (◆):文部科学省国立大学法人評価委員会に承認された「戦略的かつ意欲的な目標・計画」
- (※):新型コロナウイルス感染症による影響を特に考慮して分析・判定した中期計画

※ 「下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値」のうち、大項目「教育」「研究」の数値については、中項目の判定に使用した数値をそのまま大項目ごとに平均して算出し、その上で4年目終了時に実施した学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を行っている。

【教育】 達成状況評価

現況分析:「教育」

$$\left(\text{当該法人における大項目「教育に関する目標」の中項目の平均値} \right) + \left\{ \left(\text{当該法人における(Ⅰ 教育活動の状況)、(Ⅱ 教育成果の状況)の全判定結果の平均値} \right) - 2^{\text{注1}} \right\} \times \text{係数 } 0.5^{\text{注2}}$$

【研究】 達成状況評価

現況分析:「研究」

$$\left(\text{当該法人における大項目「研究に関する目標」の中項目の平均値} \right) + \left\{ \left(\text{当該法人における(Ⅰ 研究活動の状況)、(Ⅱ 研究成果の状況)の全判定結果の平均値} \right) - 2^{\text{注1}} \right\} \times \text{係数 } 0.5^{\text{注2}}$$

注1 現況分析は4段階判定となっており、【2】判定(相応の質にある)が基準となる判定のため、現況分析の教育または研究の全判定結果の平均値が2を上回る場合は加算、下回る場合は減算となる。

注2 現況分析結果の加算・減算に当たっては、達成状況の評価結果であることを考慮し、係数「0.5」を設定する。
なお、加算・減算後の数値は小数点第3位を切り捨て処理しているため、現況分析結果加算点と教育または研究に関する大項目における判定の平均値の合算値が一致しないことがある。